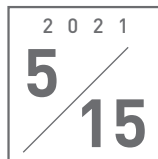


病院・老健の経営力を高める

病院 羅針盤



特集
1

急増する 自然災害に備える

事例1 地域BCPの策定に向けたWeb連携

事例2 非災害拠点病院における
BCP (Business Continuity Plan) の
作成と院内防災訓練

特集2

自立支援介護への転換のすすめ（前編）

インタビュー

介護現場の今を追う

入所者もスタッフも家族のように
安心して過ごせる施設を目指す

医療法人仁寿会 介護老人保健施設アルマ・マータ（岐阜県）

児玉逸雄 施設長

40周年を機に策定した クレドとその成果

～コロナ禍に策定したSDGsに想いを拡げて～

後編・SDGs編

医療法人社団誠療会 成尾整形外科病院 事務局長 **西村俊也**

2020年1月から全世界で新型コロナウイルス感染症が蔓延^{まんえん}しましたが、必要な医療を継続して受けることができるよう、患者さまを懸命に支えながら、職員は恐怖や不安と闘い窮屈な日常を強いられていました。また、皆で集まって想いを共有する機会が減り、心理的なまとまりが生み出せずどこかギクシャクしたり、孤独で目標を見失いような感覚を受けていました。そんな中「SDGs」に取り組むことで、職員の心理的なまとまりを生み出せるのではと考え、取り組みを開始しました。

当院が策定した「クレド」および「SDGs」の具体的な取り組みや成果、今後の方針について紹介します。

(前編 クレド編は5月1日号に掲載しました)

クレドからSDGsへ想いを拡げて

日本でもSDGs（エスディーゼーズ）という言葉をよく聞くようになりましたが、われわれはなぜ、このSDGsに取り組むのでしょうか？

SDGsとはSustainable Development Goals（サステナブル ディベロップメント ゴールズ）（持続可能な開発目標）の略で、世界のすべての人が幸せになるためにみんなで取り組む目標のことです（資料1）。

病院概要

名 称	医療法人社団誠療会 成尾整形外科病院
所在地	熊本市中央区岡田町12-24
電 話	096-371-1188
病床数	103床（一般49、地域包括ケア54）
H P	https://naruoseikei.com/

2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択され、掲げられた国際目標です。2030年までに「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指し、17のゴール（目標）と169のターゲットから構成されています。そして、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、私たちが直面する世界的な課題が含まれています。

その達成のためには「経済成長」、「社会的包摂」、「環境保護」という3つの核となる要素の調和を欠かせないものとし、SDGsはこれら3つの面もカバーしています。

われわれがSDGsに取り組む理由は、社会貢献や企業（病院）としての使命ということもありますが、新型コロナウイルスと闘っている今、皆で集まって想いを共有し

資料1 SDGsの17の目標



て心理的なまとまりを生み出す場面が減り、どこかギクシャクしているような感覚を受けています。さまざまな考えの職員が存在する院内で、このSDGsに取り組むことにより、一同が同じ物事や目標を共有することで、心理的なまとまりを生み出せるのではと思います、コロナ禍だからこそ、こういったことがとても必要ではないかと感じています（クレドも心理的なまとまりを生み出せるのではという想いで進めています）。

その輪を職員から患者さまや関係する人々に広げていければと思います、SDGsに取り組むことにしました。

当院では、ゴール（目標）の1（貧困をなくそう）、3（すべての人に健康と福祉を）、4（質の高い教育をみんなに）、5（ジェンダー平等を実現しよう）、7（エネ

ルギーをみんなにそしてクリーンに）、8（働きがいも経済成長も）、9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、10（人や国の不平等をなくそう）、11（住み続けられるまちづくりを）、12（つくる責任つかう責任）、13（気候変動に具体的な対策を）、17（パートナーシップで目標を達成しよう）を、「持続可能な開発目標」に掲げました。しかし、SDGsの本質は17の目標は相互に関連しており、それを包括的に解決することが本当の意味で解決に向かうとも言われています。

つまり、SDGsに関連する世界で起っている問題や課題、今後世界がどういった方向に進んでいこうとしているのかという全体像を把握し、それぞれがお互いにつながっている、という感覚を持つことが大切です。

より良き世界を創り出すため医療法人の立場で、当院のクレドにも掲げている患者さま、職員、地域（医療機関）、協力業者等と17番目の目標である「パートナーシップ」を保ちながら活動を行っていきます。

また、このつながっている世界に対して行動し、国際社会の一員としてグローバルな視点を持ち、さまざまな施策においてSDGsの理念を踏まえた取り組みを行い、貢献していきます。

SDGsの取り組み ～きっかけから開始まで～

SDGsが2015年の国連サミットにおいて全会一致で採択されて5年が経過した2020年。日本では医療機関での認知度や取り組みが他企業に比べかなり低いと感じていました。しかし、より良き世界を創り出すため医療法人の立場で、このつながっている世界に対して行動していくことで、たくさんの方で貢献できるのではと思い、取り組みを検討しました。

まず、当院が取り組んでいるさまざまな活動の中からSDGsの趣旨につながるものを院長、事務局長、総務課係長で整理し、「SDGs案」として各部署長21人（副院長が委員長）が出席する運営会議に諮りました。部署長から出た意見、アイデア等を参考に新たな「SDGs案」を作成し、全職員へメールにて発信し、意見やアイデアを求めました。この意見やアイデアを参考に再度整理を行い、最終的には院長が運営方針やクレドに沿って決定しました。決定された取り組み内容はコロナ禍ということもあり、院

長から書面にて全職員へ発信され、2020年11月から取り組みを開始しました。

〈SDGs当院の取り組み〉 (2020年11月～)

(1) 医療への取り組み

医療法人として、当院を利用される「皆さまの立場に立った医療」を提供できるよう、日々尽力しています。



・医療活動

専門性、低侵襲な医療の提供を追求するため、症状や所見、生活環境を加味し保存療法から手術まで、患者さまの思いに寄り添った医療の取り組みを続けています。医療の質を高め、多くの方の負担を軽減し、患者さまのQOL向上、健康寿命の延伸、早期の社会復帰に貢献します。

・医療連携活動

質の高い、効率的な医療提供体制を構築するために、救急患者の受け入れ体制強化として地元消防救急隊との症例検討や合同勉強会、病病連携・病診連携による紹介・逆紹介の促進、地域医療連携懇談会を開催しています。

(2) 教育への取り組み

他院医師の手術見学受け入れや臨床修練および看護学生の実習・研修・見学の受け入れを行っています。



・他院医師の受け入れ

総合診療専門研修や若手医師の手術見学、臨床修練を受け入れています。

・看護学生の受け入れ

医師会専門学校等の看護学生実習を受け入れています。また、近年では日本で看護師免許取得を希望する韓国の看護大学から看護学生を受け入れています。さらに、次世代の医療を担う在学中の看護学生に対して学業に専念できるよう奨学金を支給しています。

・院内外勉強会

職員に向けた勉強会だけでなく、他の医療機関に所属している医療従事者や患者さま、地域の皆さま等に向けたセミナーや勉強会を地域支援事業として定期的に開催しています（市民公開講座、地域医療連携懇談会、健康フェスタ、出前講座、健康になるお教室、野球教室、健康スタンプラリー、院内コンサート等）。

また、熊本地震復興活動として発足した13の医療機関で構成する「熊本総合医療支援グループ」では、講演会等により地域の皆さまの健康保持・増進のサポートをしています。

職員に対しては、コロナ禍ということであっても教育の機会を増やすためにeラーニングを導入し、自宅でも手軽に選択受講できる自主学習を推進しています。電子ジャーナルや文献検索サービスを導入し、院外からもアクセスできるなど利便性を高めて活用しています。

・職場体験

地域活動の一環として、地元の中・高生、

専門学生、就労支援学校等の職場体験や見学の受け入れを毎年実施しています。

（３）環境への取り組み

医療法人として、今後も省エネルギーや省資源の推進に取り組んでいきます。



・省エネルギー・省資源の推進

光熱費およびコピー用紙の使用枚数の前年比較を全職員に公開し、意識改革の推進から削減に努めています。

・環境に配慮した物品の購入

現在使用しているペーパータオル、トイレットペーパーは100%再生紙を使っています。

廃棄するコピー用紙（機密書類以外）は、リサイクル（古紙再生）に出しています。

（４）あらゆる人の豊かな生涯のために私たちができること

「地域に根差した笑顔があふれる病院」を目指していきます。



・働きやすい職場

性別、障害など社会的・文化的格差がない職場を実現するために働き方改革を理解し、障がい者雇用も積極的に推進していきます。

・地域での私たちの役割

地域の皆さまが健康に関する知識を身につけ、健康な生涯につなげていただくため

に健康教室やセミナー、スポーツ支援など積極的に活動していきます。

また、有事の場合でも必要な医療を継続して提供できるよう体制を整備します。

・世の中にとって

健康や医療にかかわる情報をニーズに合わせて定期的に発信していきます。

2021年度からのSDGsの取り組み

・開発途上国の支援

飢餓に苦しむ世界の子どもに給食を支援している認定NPO法人「TABLE FOR TWO」があります。先進国で1食とるごとに開発途上国に1食が送られる取り組みで、当院の食堂で注文すると、開発途上国の給食1食分に当たる20円を寄付するような支援ができないかと考えています（資料2）。

職員一人ひとりが気負わずにできる小さな取り組みが多くの人々の助けとなり、貧困問題の解決につながるのではと考えています。



・環境・資源問題

限りある資源を大切に利用するために、院内でできるECO活動として省エネ・節エネ、ペーパーレスへの意識改革を推進していきます（資料3）。



・ECOキャップ運動

日頃利用しているペットボトルのキャップをリサイクルすることにより、雇用や医

資料2

TABLE FOR TWO を介して開発途上国の支援を
開発途上国の給食1食分 = 20円の寄付
<https://jp.tablefortwo.org/about/>

職員職数 1日30～40食

1食(330円)につき10円を寄付(病院より)
個人でも貢献したい方「340円(寄付つき)」
⇒ 1食(340円)につき20円を寄付(個人+病院)
「通常」or「寄付つき」を注文の時に選択できるようにする

資料3

環境・資源問題

院内でできるECO活動の実施
電気、ガス、水などの使用削減、ペーパーレスの推進など
<https://ecocap.or.jp/>

電気、ガス、水など資源を守り、地球環境にやさしい活動を
⇒ 節電、節水の意識(エアコンや電気、水道の使用など)
印刷物を可能な限りペーパーレスを推進する

使用量を毎月提示(コスト削減にも繋がる)

資料4

ECOキャップ運動

エコキャップ推進協会を通じ、リサイクル促進、地球温暖化、医療・生活支援、障がい者雇用の創出
<https://ecocap.or.jp/>

キャップをリサイクル
選別作業のため、障がい者を雇用している
医療・生活支援『レット症候群研究支援』『ポリオワクチン』
キャップ430個を燃やさないことで3.15kgのCO2削減
(日本人ひとりが1年間に出すゴミから発生するCO2は75.25kg)

各自動販売機横に回収ボックスを設置

療・生活支援、CO₂削減に貢献していければと考えています。ペットボトル自体も廃棄ではなくリサイクルする意識につなげていきたいと思います（資料4）。



終わりに

われわれが取り組んだ「クレド」と「SDGs」は、必要な医療を今後も継続して提供できるよう安定した病院運営をする一つ的手段と考えています。それは、人口減少が問題になっている現在、近い将来起こり得る患者減のみならず、「働き手不足」の問題に視点を置いた取り組みでもあります。

職員の勤務意欲の向上や心理的なまとまりには、まずは当院や職員同士の「ファン」をたくさん増やすことが必要と考えていま

す。職員は当院で働くことが誇りや自信、モチベーション、生きがいにつながり、それが、職員家族や患者さま、地域社会、取引業者など当院に関係するすべての方々へ「ファンづくり」として波及する、いわゆる「マグネットホスピタル」として職員も組織も成長し続けるものと確信しています。

このような取り組みは小さな一步かもしれませんが、活動を継続することでメッセージとして多くの人々へ伝わり、幸せで豊かな社会の一助となるよう貢献していきたいと思っています。